

3.6 実証実験のまとめ

本実証実験では、2005年のIT社会のあるべき姿として、IPv6技術と日韓高度情報通信基盤を利用して、日韓の海を隔てた遠隔地に居ながら、あたかも同一空間を共有しているような、臨場感を体感することができる環境の実現を目指し、日韓国際文化交流に関する幅広いアプローチで各種アプリケーションの実証を行うとともに、国際スケーラブルなネットワーク上において、効率的な情報流通を可能とするための、先端インターネット技術の調査研究を行った。

この成果として、本実証実験で構築したインターネット技術基盤上における、各種アプリケーションの実証を通じて、国内の参加者、インターネットモニターのみならず、韓国を中心とするアジア諸国の人々にも、我が国の世界最先端のIT国家のイメージを知らしめるとともに、参加者やインターネットモニターに対するアンケート調査により、その有効性を検証することが出来た。

調査研究においても、今回構築した日韓間のスケーラブルなネットワーク上で、大容量、多地点間等における効率的なデジタルコンテンツ流通を実現するための、メガカンファレンス技術やマルチキャストIX技術等について、メガカンファレンスを実現するための手法の研究や、広域マルチキャスト経路制御の行える環境の設定等を行い、実証実験を行うための技術環境を整えることが出来た。

また、今回、日本と韓国間における各種アプリケーションの実証や調査研究を通じて、韓国側の積極的な協力参加を得ることができ、国際プロジェクトとも言える、本実証実験を推進するための国際協力体制が整った点も、大きな成果であると考えられる。

一方、IT技術革新の成果を用いて、国際文化交流をより一層飛躍させるためには、市民のライフスタイルや、ビジネススタイルに配慮して、誰でも、何処からでも国際コミュニケーションが可能な環境を実現するとともに、国際コミュニケーションのみならず、日韓間において、リアルタイムで共同作業の可能な国際遠隔コラボレーションが行える環境の実現など、新たなアプリケーションの実証、並びにそれを実現するための技術の調査研究についても、積極的に取り組む必要がある。

このため、今後は、IPv6技術やマルチキャスト技術など、先進的なネットワーク技術について、韓国側との協同で完成度を高め、その技術環境を用いて、例えば定常的な遠隔講義や遠隔ゼミ等を開催するなど、詳細な検証を継続して行うとともに、日韓遠隔での医療や楽器のライブ演奏といった、より高度なネットワーク応用の実証実験の推進、更には、日韓でもモバイル技術など、新しい技術項目も取り入れていく必要がある。